

第1回 サイバーポート進捗管理WG（港湾物流分野）

議事要旨

日時：令和4年6月10日（金） 15：00～17：00

場所：中央合同庁舎3号館 10階港湾局会議室（オンライン併用）

1. サイバーポートのこれまでの取組状況、今後の利用促進策及び機能改善等について、それぞれ事務局から説明した後、意見交換を行った。
2. 意見交換では、参加者から、以下のような意見があった。
 - (1) これまでの取組状況について
 - ・ サイバーポートの普及にあたっては、荷主、外航船社の参加が必須である。
 - (2) CyberPort 利用促進・運用効率化実証事業の結果について
 - ・ サイバーポートによる時間削減効果が大きいところはアピールし、効果の少ない業種の業務については、効果を得られるようにすることで参加会社の増加が期待できるのではないか。
 - (3) 今後の取組予定について
 - ・ サイバーポートの普及に関しては、各階層の全ての事業者を取り込む形だけでなく、利用シーンを想定し、「手続単位」での接続形態を紹介することも検討してはどうか。
 - ・ 輸出コンテナの総重量情報を荷主へプッシュ通知する機能を持たせる事が、海事局により定められている荷主等の総重量確認の効率化につながり、荷主の参加促進にも有効ではないか。
 - ・ 既に港湾単位で標準的に利用されているシステムがある港湾において、サイバーポートを導入することでどのように業務が効率化されるのか関係者に説明する等、関係者と丁寧に調整いただきたい。
 - ・ サイバーポートへの参加の動機付けとなるメリットの導入や

情報セキュリティの確保等を進めていただきたい。

- ・ 戦略港湾施策の観点から、京浜港、阪神港については早い段階でのサイバーポート導入を促すべきではないか。
- ・ VGM 情報の電子的伝達、海上運賃・諸チャージ入金情報の照合効率化を図る仕組みの導入、ケースマーク情報のデータ形式での取得、ポートペアによる輸出入コンテナ物量検索機能を実現することが、船社の利用促進につながると考える。
- ・ NACCS との連携が早期に実現する事については有意義であり、利用者拡大の一助となる。TradeWaltz 等の貿易プラットフォームとの連携協議もスピードアップを願いたい。
- ・ データの標準化の検討にあたっては、国際商業会議所 (ICC) の標準ツールキットが発表されているため、これを踏まえた検討が重要である。
- ・ 同一情報でも表現方法が異なるとデータ連携ができないため、データの標準化はサイバーポートを利用して事業者間でデータ連携する上で非常に重要。極力入力ルール等は厳格化すべきである。
- ・ 標準化について、ある程度入力できる情報の幅は持たせつつ、それらを一意の情報に変換できるような仕組みとするとよいのではないか。

(4) 全般

- ・ サイバーポート（港湾物流）は、NACCS、TradeWaltz、サイバーポートの港湾管理分野や港湾インフラ分野の情報とも連携することで、付加価値が生まれ、新たなビジネスチャンスになり得ると考える。

以上